

1 梨の生育状況

梨の結実は、「幸水」、「豊水」、「新高」でやや少ない～少ない樹や園地が多く、果実の大きさにばらつきが見られます。「あきづき」については平年並み～やや少ないとなっています。また、「あられ」による被害果実が散見されます。

黒星病の芽基部病斑、罹病果実、葉の発生は、昨年同様、少ない状況です。

また、側枝単位で、春先の展葉した葉に波打ちや萎縮、葉先端の黒変、果実の小型化・奇形を引き起こす「萎縮病」の発生がやや多くみられます。

虫害は、ナシヒメシクイの発生は平年よりやや少なく、一部で開花期にハマキムシ類による花そうの食害が少発、ニセナシサビダニの発生は「あきづき」の一部でやや多い状況です。また、カメムシ類が山手のトラップに多数誘殺されています。

2 黒星病の発生状況

① 果実、葉等の発病状況

5月15日の発病状況調査結果では、下表のとおりで昨年同様、いずれの品種も少ない状況です。

表 R2年 黒星病発生状況(調査日:5月15日)

品種名	調査園地数	発病 果そう率 (%)	部位別発病率			
			果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉	
					葉 (%)	葉柄 (%)
幸水	68	0.3	0.2	0.0	0.0	0.1
豊水	27	0.4	0.3	0.1	0.0	0.0
新高	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
あきづき	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計・平均	113	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0

【昨年同時期】

表 R元年 黒星病発生状況(調査日:5月15日)

品種名	調査園地数	発病 果そう率 (%)	部位別発病率			
			果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉	
					葉 (%)	葉柄 (%)
幸水	68	0.8	0.4	0.3	0.0	0.1
豊水	27	0.7	0.2	0.4	0.0	0.1
新高	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
あきづき	4	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0
合計・平均	113	0.6	0.3	0.2	0.0	0.1

◆発生要因について(感染源の多少、気象データによる感染リスク)

① 1次感染源・落葉からの孢子累積補足数 コ/cm²

	モニタリング調査	落葉処理園地
R2	36.9	0.4
R元	55.0	0.8
H30	12.8	0.1

※補足数は、3/25～5/15 までの累積

② 1次感染源・芽基部病斑の発生率(%)

	「幸水」	「豊水」
R2	2.0	1.9
R元	2.8	4.1
H30	9.4	10.0

③ 気象データ解析による感染危険度発生状況

	感染危険発生日数(日)	感染危険度(指数)
R2	0	0
R元	2	1.5
H30	16	5.2

※対象期間は、4/10～5/15 危険度は、0～9の10段階評価

◎ 1次感染源である落葉からの孢子飛散、芽基部病斑の発生とも少なく、感染しやすい日が少なかったことからいずれの品種も今ところ罹病果実・葉の発生は少ない。

☆重要☆：

- 現在、果実や葉の発病は少ない状況ですが、今後も芽基部病斑や発病している果実や葉からの孢子飛散に注意が必要です。
- これらを放置すると降雨のたびに感染が広がる恐れがありますので、見つけ次第、速やかに除去し園地外で適切に処分してください。特に落葉処理が不十分であった園地周辺で発生が見られますので十分注意してください。
- 現在、比較的黒星病に感染しにくい生育ステージですが、7月初旬から再び「幸水」の果実に感染しやすい時期となります。

7月の発病を抑えるためには、6月末までにしっかり罹病果実、葉を取りきることが極めて重要です！！

3 これからの防除について

☆防除は「降雨前」、SSは「低圧、低速、全列走行」を心掛けましょう

☆防除開始時間は午前5時以降としてください(午前4時台にSSのファンを回さないでください)。

回数	散布月日	薬剤名と濃度	散布量	主な対象病害虫	防除実施日
9	5月24～26日	ベルコートフロアブル 1,500倍 ファルコンフロアブル 6,000倍	300ℓ	黒星病、輪紋病、うどんこ病 ハマキムシ類、ケムシ類	
10	6月3～5日	オキシラン水和剤 600倍 アプロードフロアブル 1,000倍	300ℓ	黒星病、輪紋病 カイガラムシ類幼虫	
11	6月13～15日	キャプレート水和剤 600倍 スプラサイド水和剤 1,500倍	300ℓ	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類、アブラムシ類 カメムシ類、カイガラムシ類	
12	6月23～25日	オキシラン水和剤 600倍 サムコルフロアブル 10 5,000倍	300ℓ	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類、ハマキムシ類、ケムシ類	
13	6月28～30日	ダニゲッター フロアブル 2,000倍	400ℓ	ハダニ類、ニセナシサビダニ	

●殺ダニ剤の効果を十分発揮させるため、散布前には必ず草刈りを実施しましょう

【注意事項】

- ① 【12回目】と【13回目】の間隔が5日間となるので注意する。
- ② 【13回目】のダニゲッターフロアブルは、「遅効性」であるため、ハダニ類の密度が高まる前に散布する。(ハダニ類の発生が早い場合は、アカリタッチ乳剤(2,000倍)を散布し、密度低下を図ってから「ダニゲッターフロアブル」を使用する。)

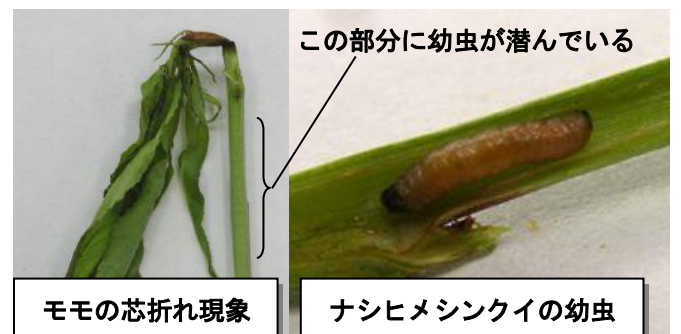
4 害虫対策について

●ナシヒメシンクイの耕種的防除対策

梨園に隣接するウメ、モモの新梢先端が折れて萎れている「芯折れ」が見られる場合には、これを切り取って処分して下さい。

●ハマキムシ類及びシンクイムシ類対策に

コンフューザーNの設置を！



5 摘果作業について

仕上げ摘果は6月20日(満開60日後)を終了の目安に！

着果数の少ない樹に対しては、着果数確保を優先とし、摘果作業は、果実の大きさ、形、果軸の太さ、あられの被害、果実の向き(上向き果や重度なサビダニの被害果は軸折れの恐れ!)等を考慮して進めましょう。

また、萎縮病被害枝については全摘果して樹勢回復に努めて下さい。

仕上げ摘果時の着果量(目安)

品種名	1㎡当たりの着果量	側枝長当たり(100～120cm)	1樹当たりの着果量(3間植の場合)
幸水	10～11果	5～6個	290～320果/樹
豊水	11～12果	6～7個	320～350果/樹
あきづき	11～12果	6～7個	320～350果/樹
新高	9～10果	4～5個	260～290果/樹

6 新梢管理(摘心)について

本年は、萎縮病の症状の樹や新梢伸長が緩慢、葉色が薄い等樹勢がやや弱い樹が散見されます。このため、摘心作業は適正な樹勢の樹を対象とした実施に止め、樹勢低下を助長させないように注意下さい。